

第117回  
日本外科学会  
定期学術集会

The 117th  
Annual Congress of Japan Surgical Society

会期：2017年4月27日(木)～29日(土)  
会頭：桑野 博行 (群馬大学大学院病態総合外科学)

医療安全  
そして  
考える外科学



医歯薬  
437  
研究委員会

第117回 日本外科学会定期学術集会  
拡大プログラム委員会



# 第117回日本外科学会定期学術集会

The 117th Annual Congress of Japan Surgical Society

≪ 2017年4月27日(木) - 29日(土) ≫ 会場 117/13横浜 ≪ 会場案内 ≫



*Clinical Safety and  
Contemplation of Surgical Science*





第117回日本外科学会定期学術集会  
The 117th Japanese Society of Plastic Surgeons Annual Meeting  
Cloud City and Contribution of Surgical Science



第117回  
日本外科学会定例学術集会  
*Annual Meeting for the Association of General Surgeons*  
特別企画 (S)  
SP-5-5  
肝臓癌の拠点に学ぶ医療経済への提案と  
地域医療の発展  
花輪 博夫  
岡山大学

## 手術の指導



# SP-5 特別企画(5)「今こそ地域医療を考える—都市と地方の外科医療と外科教育の格差を解消するには—」

4月28日(金)14:20~15:30 第1会場(国立大ホール1F)

司会：長崎市立病院機構 兼松隆之  
北海道大学循環器・呼吸器外科 松居喜郎

SP-5-1-KL 基調講演：外科医療の未来を医師のキャリアデザインと地域デザインから考える  
参議院議員 自見はなこ

SP-5-2 エリアニーズからみた外科診療と外科医育成のあり方  
弘前大学消化器外科 袴田健一

SP-5-3 地方再生は教育から：地域外科医療の発展を目指した Academic Surgeon 育成への取り組み  
高知大学外科 花崎和弘

SP-5-4 北海道における外科教育の取り組み  
北海道大学消化器外科 武富紹信

SP-5-5 研修医の視点に学ぶ格差解消への模索と地域医療の役割  
秩父病院外科 花輪峰夫

# 研修医の視点に学ぶ格差解消 への模索と地域医療の役割

---

秩父病院外科

花輪峰夫 守麻理子 大野哲郎 山田正己

# 日本外科学会 利益相反の開示

筆頭発表者名： 花輪 峰夫

演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

# 秩父夜祭



# 病院全景

---



# 病院情報

病床数:52床 創設明治20年

診療科目:外科 内科 消化器外科 消化器内科 肝臓内科 腫瘍内科 循環器内科  
形成外科 整形外科 肛門外科 放射線科 麻酔科 歯科

- 指定・認定:

開放型病院 救急告示病院・二次救急輪番病院

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設

日本外科学会外科専門医制度関連施設

日本消化器外科学会専門医制度関連施設

日本プライマリ・ケア連合学会研修認定施設

研修医制度臨床研修協力施設(協力依頼8医療機関)

日本静脈経腸栄養学会NST稼動認定施設

財団法人 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定

人間ドック学会 健診・人間ドック機能評価認定施設

# 格差の原因と解消への模索

## 格差の原因

医師の地域偏在

都市への集中

医師の診療科偏在

外科医不足

## 解消への模索

研修医の視点から見た都市(大学の医療)と地方(地域医療)の「違い？」に焦点をあて、格差解消の糸口を模索した。

# 研修終了後のレポート (1)

- 初めて外来診療を体験できた
- 外傷処置や縫合、外傷外科を体験できた
- 外来初診から検査、診断、治療・手術まで、診療全体の流れを知り、その流れの速さに驚いた
- 内視鏡をたくさんやらせてもらった
- 様々な手術に参加できた。初アッペ、ヘルニアをやらせてもらった
- 初めて開腹手術を見た
- 初診から手術までの時間と手術時間が短いことに驚いた
- 麻酔科がないのに外科医が麻酔をしているのに驚いた
- 腰椎麻酔でも手術はできることを知った

## 研修終了後のレポート (2)

- あらゆるスタッフと触れ合うことができ、医師とスタッフとの距離の近さを感じ、チーム医療の大切さに気付いた
- 外科、内科の垣根がないことに驚いた
- 夜間救急の当直医が外科内科を問わず小児まで診ていることに驚き、感動した
- 患者を断らないことにびっくりした
- スタッフ全員が地域医療を支えているという思いに感動した
- 救急外来で多くのことを学んだ
- 医師としての在り方を学んだ
- 人生の楽しみ方を学んだ
- 広い視野を持つ医師になりたいと思うようになった

# 初期研修医への研修医アンケート

- 1、指導医がいる
- 2、各科専門医の受験資格が取れる
- 3、症例数が多い
- 4、医療の進歩に遅れない
- 5、最後に待遇、環境が良い

# 主な当院の取り組み・具体的指導

- 大学との人事交流
- 医療の進歩に遅れないための技術、手術の導入
- 地域診療所専門医による各専門外来診療
- 学会への積極的参加・論文発表等の学会活動
- 可能な限り広い領域の診療
- 極力、開腹・手縫い吻合
- 小児のアッペ、ヘルニアは従来法
- 皮膚良性腫瘍、下腿静脈瘤、植皮、痔は一般外科
- 全身・腰椎麻酔、蘇生術の習得
- 当院の診療、手術の変遷を伝える

# 大学の専門医による出張指導

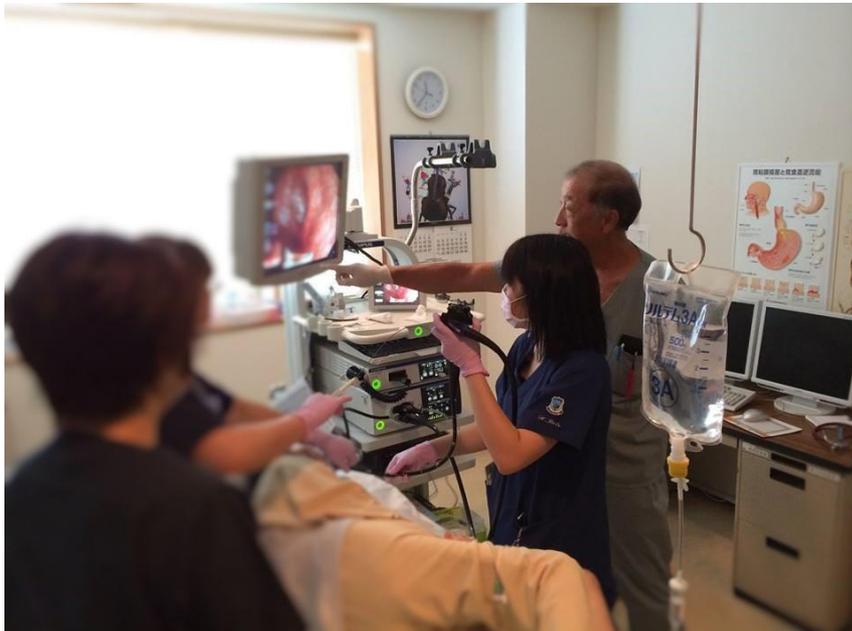
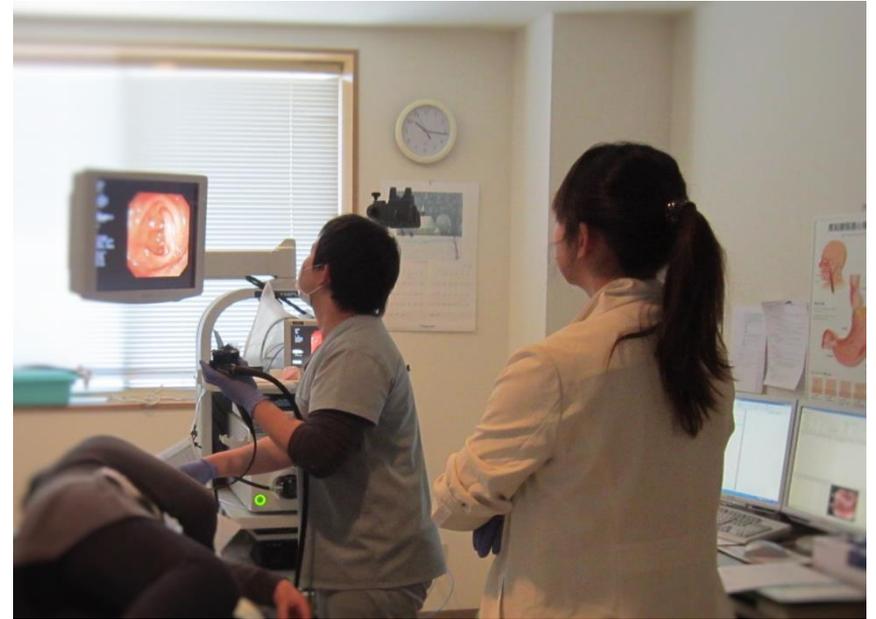


# 研修医の学会発表





# 内視鏡の指導



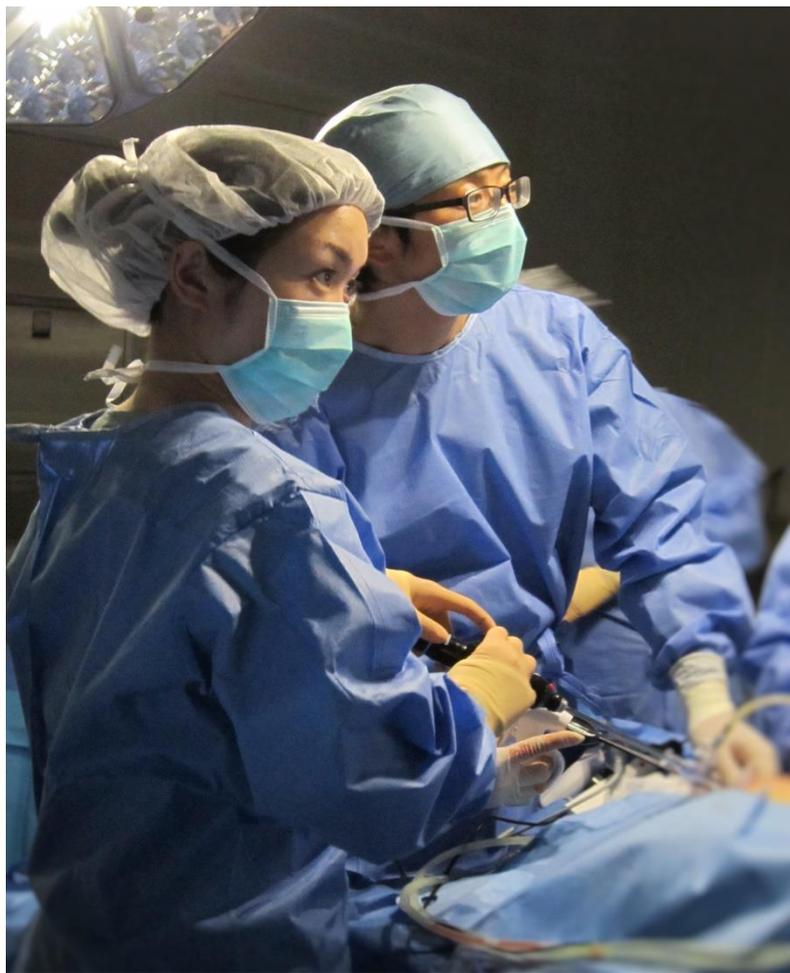
# 救急



# 麻酔の指導



# 手術の指導





# 花仁塾



# コミュニケーション





# 結語

- 格差解消の基本は医師の偏在の解消
- 指導陣の意識改革・温故知新の精神
- 地域医療の魅力と重要性の認識
- 早い時期からの地域医療経験
- 都市(大学病院等)と地方(地域病院)の役割分担・お互いを補填
- 都市と地方の継続的な双方向の流れと循環
- 地域医療とは医療の原点・地域を担う気概

PS-008-5

# 外科医主導で行う臨床研究—埼玉県秩父地域における胃がんリスクABC検診—

大野哲郎, 守麻理子, 山田正己, 花輪雄夫  
(秩父病院外科)



## 外科医主導で行う臨床研究—埼玉県秩父地域における胃がんリスクABC検診—

The ABC method gastric cancer assessing study led by surgeons in Chichibu, Saitama

調査法人に在 秩父病院外科  
大野哲郎, 守麻理子, 山田正己, 花輪雄夫

### 1. 背景

平成29年度の埼玉県がん検診（胃がん）受診率は22.3%と低く、全国平均は4.4%、埼玉県平均は7.7%と大きく下回る。調査対象地域には調査されていない。ABC方法検診では、ヘリコバクター感染の有無（C）、胃粘膜萎縮の程度（B）、H.pylori感染の有無（A）を順番に検診することで、胃癌のリスクを段階的に評価し、リスクに応じた検診や治療の提案を行う。秩父地域における胃がんリスクABC検診の臨床研究として実施した。



### 2. ABCリスクの検診

検査項目と検診方法のフローチャート。A: H.pylori感染の有無、B: 胃粘膜萎縮の程度、C: Helicobacter pylori感染の有無。各項目の結果に基づき、リスクレベル（A, B, C）を判定し、検診の頻度や治療の提案を行う。

リスクレベル	検診頻度	治療提案
A	1年	抗酸剤投与
B	2年	胃がん検診
C	3年	胃がん検診

### 3. 対象と方法

- 秩父市内、3市域（栗原町、栗原町、栗原町）の住民を対象とし、4,100人を対象とした。
- 地域別に説明会、説明会後アンケートを実施し、同意を得た上でABC検診を実施した。
- ABC検診は、C型からA型まで段階的に実施し、検診結果に基づき検診の提案や治療の提案を行った。
- 本研究は当該地域住民を対象として、臨床研究における倫理審査を経て実施した。

### 4. 結果



### 5. 考察

- ABC方法検診により、胃癌のリスクを段階的に評価することができ、胃癌のリスクに応じた検診や治療の提案が可能となった。
- 胃癌のリスクに応じた検診や治療の提案により、胃癌の予防や早期発見が可能となった。
- 胃癌のリスクに応じた検診や治療の提案により、胃癌の予防や早期発見が可能となった。
- 胃癌のリスクに応じた検診や治療の提案により、胃癌の予防や早期発見が可能となった。

### 6. 結論

胃がんリスクABC検診は、秩父地域における胃がん検診受診率の向上に寄与する効果があると考えられる。

秩父県立病院 外科 大野 哲郎  
調査法人に在 秩父病院外科 大野 哲郎



PM-2  
PS-008-6

